

ヤマハ電動車いす

初めてお使いいただく方へ



安全に関する事項が掲載されています。

販売店様・レンタル店様へ

納品前にお読みいただき、必ずお客さまに安全指導を行なってください。

お客様へ

本書に従って販売店様・レンタル店様より安全指導を受けてください。

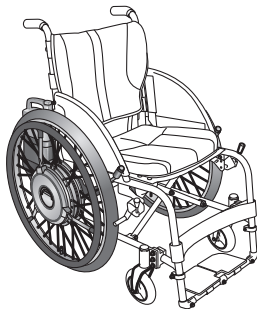
本書は、下記のヤマハ軽量型電動車いすおよび車いす用電動ユニット取扱説明書の補助資料です。
本書をお読みになる前にお使いいただく製品を確認してください。

● 電動アシスト車いす・車いす用電動アシストユニット

JWスウィング

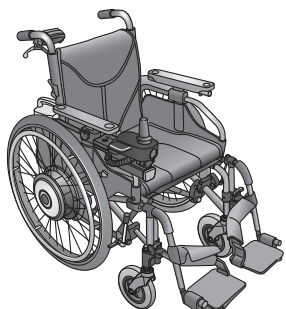


JWX-2



● 軽量型電動車いす・車いす用電動ユニット

JWアクティブ PLUS+

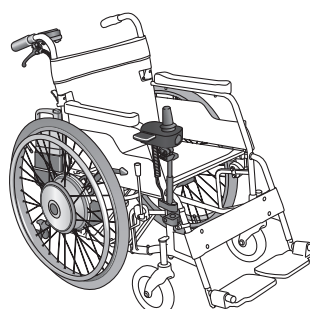


Pタイプ



Sタイプ

JWX-1 PLUS+

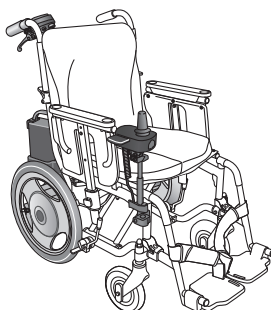


● 軽量型電動車いす・16インチ車いす用電動ユニット

タウンイジョイX PLUS+



ジョイユニットX PLUS+



はじめに	2
本書のみかた	2
販売店様・レンタル店様	3
安全指導のすすめかた	3

運転者
介助者
管理者

初めてお使いになる方に電動車いすを知っていただくためのページです

車いすの種類	4
手動車いす	4
電動車いす	4
軽量型電動車いす	5
軽量型電動車いすの特徴	6
電動アシスト車いす JWスウィング 電動アシストのしくみ	6
軽量型電動車いす JWアクティブ PLUS+、タウニジョイX PLUS+ 電動走行と手動走行切り替えのしくみ	8

運転者
介助者
管理者

介助者の運転や同行が必要か判断します

走行・介助操作 診断チェック	10
JWスウィング／JWX-2 走行診断チェック	11
JWアクティブ PLUS+／JWX-1 PLUS+、 タウニジョイX PLUS+／ジョイユニットX PLUS+ 走行診断チェック	12
介助操作診断チェック（各ヤマハ電動車いす共通）	13

販売店
レンタル店

運転者
介助者
管理者

運転や介助操作、外出時の安全ポイントについて覚えましょう

運転や操作の基本を覚えましょう	14
JWスウィング／JWX-2	14
JWアクティブ PLUS+／JWX-1 PLUS+、 タウニジョイX PLUS+／ジョイユニットX PLUS+	18
基本介助操作（各ヤマハ電動車いす共通）	21
⚠️ 車いすを安全にお使いいただくために	22

販売店
レンタル店

販売店
レンタル店

お使いいただく方に安全指導を行なってください

指導チェックシート	24
安全指導のポイント	25
転倒防止バーの正しい使いかた	25
転倒防止バーを過信しないこと	26
クラッチレバーの正しい使いかた（JWアクティブ PLUS+／JWX-1 PLUS+）	27

はじめに

ヤマハ電動車いすは、ひとりで「行ける」「できる」をサポートする製品です。

本書は、お客様が取扱説明書の内容をよく理解し、安全な電動車いすライフを楽しんでいただくため、補助資料として作成したものです。また、販売店様・レンタル店様は、お客様に安全運転を心掛けていただくために本書と取扱説明書を活用ください。

- 路面の状況や環境の状態によっては、介助者が必要になる場合があります。初めて介助操作を行なう方は、車いすを操作する前に必ず本書をお読みください。
- 本書では、電動車いすの特徴、介助者による運転や同行の要不要を判断するための診断チェック、運転・操作の基本練習、交通ルールやマナーなど電動車いすを安全にお使いいただく上で、製品のご使用前に理解いただきたいことを記載しています。
- 本書では、電動車いすについてヤマハ製品を主にして用語の記載や機構の説明を行なっています。

取扱説明書も必ずお読みください。

- 取扱説明書では、各部の取り扱い、操作、点検、保管、運搬、トラブルに対する対処や仕様諸元など製品を取り扱うための情報を記載しています。
- JWX-2、JWX-1 PLUS+、ジョイユニットX PLUS+を取り付けた車いすフレームの取り扱いについては、フレームの取扱説明書をご覧ください。

本書のみかた

本書では、指示に従わなかった場合、使用者や他の人に傷害を負わせる可能性のある項目、本製品やその他のものに損傷を与える可能性のある項目を下記の表示で記載しています。



安全にかかわる注意情報を示してあります。



取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。

注 意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。



安全上してはいけない「禁止」内容を意味しています。

販売店様・レンタル店様

実際に使用いただくお客様や施設・卸し先など販売先には、必ず本書に沿って安全指導および取り扱い説明を行なってください。



販売先には、必ず安全指導および取り扱い説明を行なってください。

製品に対する理解不足や安全認識不足は、車いす使用者のけがや事故の遠因となる場合があります。

安全指導のすすめかた

- 本書の「指導チェックシート」(P.24)に従い、取扱説明書およびお客様にお渡しする製品を併用して安全指導と製品説明を実施してください。
 - 取扱説明書の警告項目の説明や製品説明を確実に実施してください。
 - 困ったときや疑問に思ったときは、取扱説明書を読むことを確実に伝えてください。
- 実際に車いすに乗る方以外にも介助者や管理される方、必要に応じて車いすに乗る方の身近な方など、複数の方に安全指導と製品説明を実施してください。

車いすの種類

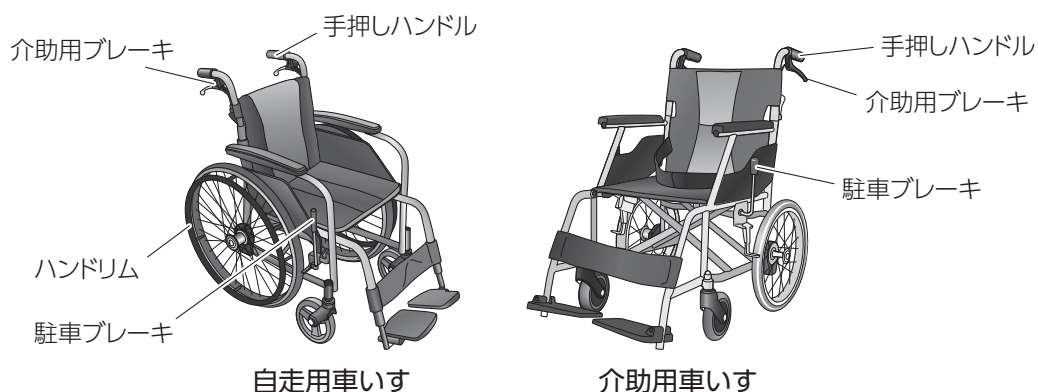
車いすには、一般的な手動車いす（標準型とも呼ばれる）のほか、使用目的、操作の方法、動力などの違いにより、さまざまな種類があります。

手動車いす

手で操作するハンドリムを備えた自走用と、手押しハンドルのみ備えた介助用があります。

自走用は、進む・曲がる・旋回・減速・止まる・後進すべてをハンドリムで操作します。自走用、介助用ともに介助操作は手押しハンドルで行ないます。

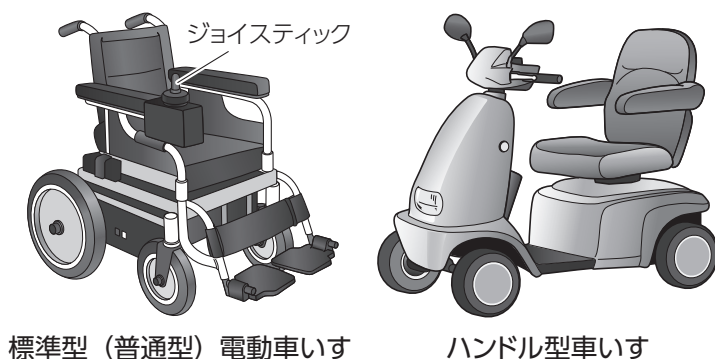
駐車ブレーキを装備している製品が一般的です。また、介助操作用に介助用ブレーキを装備する製品もあります。



電動車いす

電動モーターで走行し、ハンドリムの代わりにジョイスティックやハンドルなどで操作するため、手動車いすの操作が困難な方の行動範囲を広げることができます。

ハンドル型は、スクーターに4個のタイヤが付いたような形をしています。車いすの種類の一つです。ハンドルを操作することによって曲がり、ハンドル周辺に装備されたアクセルレバーやブレーキレバーを操作して運転します。





軽量型電動車いす

軽量型電動車いすの特長は、標準型（普通型）電動車いすの走行性と、折りたたみができ軽量な手動車いすの取り回しの良さを併せ持っていることです。

軽量型電動車いすの特長を活かしながら、さらにヤマハ独自の技術が盛り込まれた車いすが、ヤマハ軽量型電動車いすです。ハンドリムでの走行を電動モーターによってアシストするタイプと、ジョイスティックで操作するタイプがあります。

アシストタイプ

アシスト

アシストタイプは、手動車いすと同様にハンドリムを操作します。ハンドリムを操作する力に電動モーターのアシストが加わり、少ない力でハンドリムを操作することができます。電源スイッチによって、電動アシスト走行と電動アシストが働かない手動走行を切り替えることができます。

ヤマハ製品は、JWスウィング（完成車）のほか、オーダーメイド車いすなどに取り付け可能な電動ユニットJWX-2があります。



ヤマハ電動車いす
「JWスウィング」

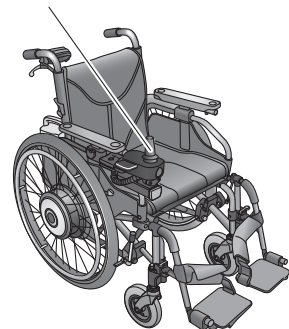
ジョイスティックタイプ

ジョイスティック

ジョイスティックタイプの一つに電動・手動走行切り替え式があります。電動・手動走行切り替え式には、ハンドリムによる手動操作も可能な普通型、ハンドリムが無い介助型などがあります。

ヤマハ製品は、完成車としてJWアクティブ PLUS+（ハンドリム装備）とタウニジョイX PLUS+、オーダーメイド車いすなどに取り付け可能な電動ユニットのみとしたJWX-1 PLUS+（ハンドリム装備）、ジョイユニットX PLUS+があります。

ジョイスティック



ヤマハ軽量型電動車いす
「JWアクティブ PLUS+」

軽量型電動車いすの特徴

軽量型電動車いすは、手動操作にも切り替えることができるため、運転・操作特性の変化が大きくなります。

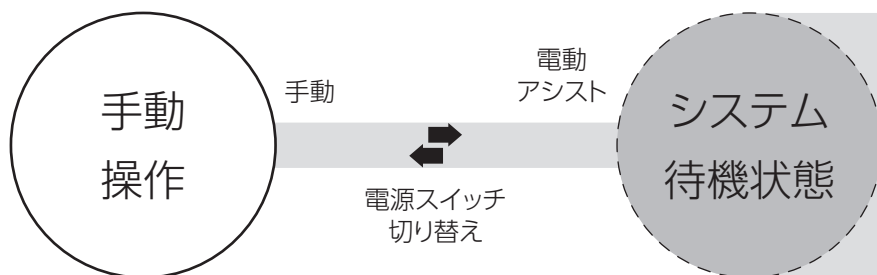
操作が手軽な電動車いすは普及が進んでいますが、普及するにつれて交通事故も増加しています。そのため、車いすに乗るだけでなく介助する方にも、製品の特性や電動操作と手動操作の違いを十分に理解していただく必要があります。

ここでは、ヤマハ軽量型電動車いす（完成車）を中心にそれぞれの車いすの特徴を説明します。

電動アシスト車いす JWスウィング

電動アシストのしくみ

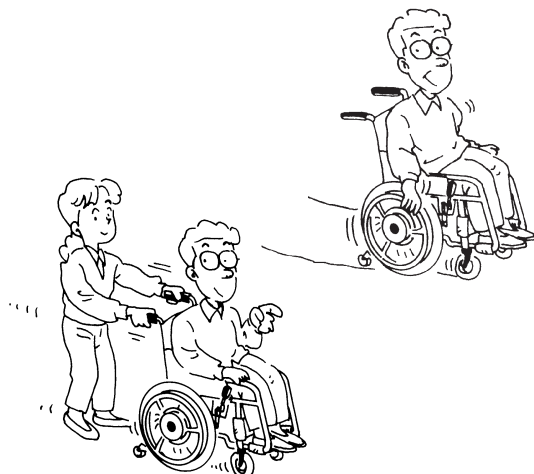
ハンドリムを操作したときのみ、電動アシストが働きます。また、電源スイッチの切り替えにより、手動車いすと同じようにハンドリム操作や介助者による移動が可能です。



手動走行するときや介助走行するときは、電源を切ります。

電源を入れると、電動アシスト走行が可能な待機モードになり、モーターブレーキが効きます。

ハンドリムを操作しないと、常にモーターブレーキがかかった状態となります。そのため、電源が入った状態では、介助走行ができません。





操作するたびに
電動アシスト
してくれる



下り坂でも
スピードが
抑えられて安心



アシスト
走行状態

減速を
アシスト

ブレーキ

ハンドリムを操作したとき、ハンドリムに力が加わったことをコンピューターが感知し、モーターブレーキが解除されます。同時にモーターによる電動アシストが働きます。

- ハンドリムに加わった力と走行スピードをコンピューターが感知して、電動アシストの量を自動で調整します。そのため、上り坂でも安定した走行が可能です。
- 上り坂でハンドリムを操作しない場合、手動車いすのように後退します。

減速時、モーターブレーキが働き、減速をアシストします。

- モーターブレーキは減速時にも働きますが、あくまでも減速をアシストするシステムです。そのため、手動車いすと同じようにハンドリムによる制動・停止操作が必要です。
- アシスト走行中に電源を切ると、モーターの抵抗により急制動が起こります。手動操作するときは、完全に停止させてから電源を切ってください。

モーターブレーキとは？

下り坂を下りるときなどにモーターによってブレーキがかかる機能





電動走行



ジョイスティックを操作することによって、電動モーターによる電動走行ができます。

停車中は常に電磁ブレーキが効くため、手動走行はできません。

ブレーキ



ジョイスティックを元の位置に戻すと減速し、停車後は電磁ブレーキが効き続けます。

- 電源を切ってもクラッチレバーが電動側にある場合は、電磁ブレーキが効き続けます。
- クラッチレバーを手動側にすると、手動車いすと同じように制動・停止操作が必要です。

走行・介助操作 診断チェック

ヤマハ電動車いすは、ひとりで「行ける」「できる」をサポートする製品です。
しかし障がいの程度や状態によっては、ひとりで走行することが危険な場合があります。
本書の診断チェックを使用して、ひとりで走行できるかどうかの判断の目安にしてください。

使用する環境や場所によっては、介助者の同行や介助操作が必要な場合もあります。
そのため、介助する方も診断チェックを使用して、介助操作ができるかどうかの判断の目安にしてください。

電動アシスト車いす JWスウィング／JWX-2 ⇒P.11を参照してください。

軽量型電動車いす・車いす用電動ユニット
JWアクティブ PLUS+／JWX-1 PLUS+、
タウンジョイX PLUS+／ジョイユニットX PLUS+ ⇒P.12を参照してください。

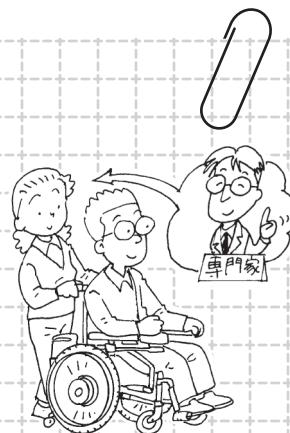
介助者 ⇒P.13を参照してください。

運転する方

車いすを運転する前に、必ず介助者が必要かどうか適性を判断してください。

また、介助者が必要かどうかは専門家の意見を参考に判断してください。

誤った判断をすると、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

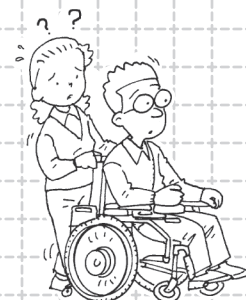


介助する方

介助者が同行・操作するときは、必ず介助者の適性を判断してください。

また、介助者の適性判断は専門家の意見を参考にしてください。

誤った判断をすると、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。





JWスウィング / JWX-2 走行診断チェック

チェック1

(1) ハンドリムによる走行ができますか？



(2) 路面や周囲の状況を正しく理解し、危険な場所を避けることができますか？



両方とも
できる

いずれかに
不安がある

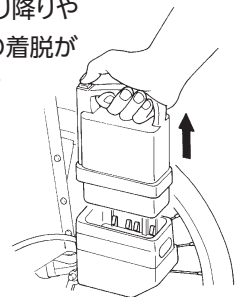
JWスウィングおよび
JWX-2 の使用は
おすすめできません。

チェック2

(1) 駐車ブレーキや電源スイッチの操作ができますか？



(2) 車いすの乗り降りや
バッテリーの着脱が
できますか？




両方とも
できる

いずれかに
不安がある

介助者に同行して
もらってください。



- ひとりで走行することは可能です。安全のために慎重な走行を心掛けてください。
- 「車いすを安全にお使いいただくために」(P.22)を参照し、介助者の同行や介助操作が必要な場所では必ず介助者に同行してもらい、安全に十分配慮して走行してください。

走行・介助操作 診断チェック

JWアクティブ PLUS+ / JWX-1 PLUS+、 タウニジョイX PLUS+ / ジョイユニットX PLUS+ 走行診断チェック

チェック1

- (1) 自走用操作部のスイッチを操作できますか？
- (2) ジョイスティックを前後左右に動かして車いすを思ったとおりに動かし、停止したいときにジョイスティックを中央に戻すことができますか？



- (3) 路面や周囲の状況を正しく理解し、危険な場所を避けることができますか？



すべてできる

1つでも不安がある

介助者に介助操作を
してもらって本製品
をお使いください。

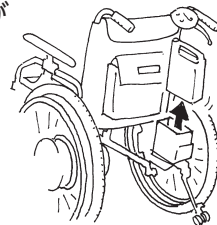


チェック2

- (1) 駐車ブレーキやクラッチレバーの操作ができますか？



- (2) ひとりで車いすの乗り降りができますか？
- (3) バッテリーの着脱ができますか？




すべてできる

1つでも不安がある

介助者に同行して
もらってください。



- ひとりで走行することは可能です。安全のために慎重な走行を心掛けてください。
- 「車いすを安全にお使いいただくために」(P.22)を参照し、介助者の同行や介助操作が必要な場所では必ず介助者に同行してもらい、安全に十分配慮して走行してください。



介助操作診断チェック（各ヤマハ電動車いす共通）

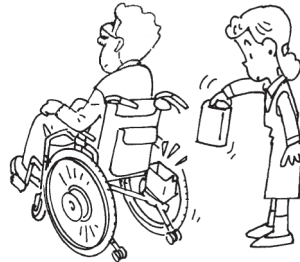
下記の項目のうち、1つでも不安があるときには、介助操作はしないでください。

- (1) 路面や周囲の状況を正しく理解し、危険な場所を避けることができますか？



- (2) 車いすの乗り降りの補助ができますか？

- (3) バッテリーの着脱ができますか？



- (4) 手動車いすの介助用操作部[※]で介助の操作ができますか？
（JWアクティブ PLUS+ / JWX-1 PLUS+、
タウニジョイX PLUS+ / ジョイユニットX PLUS+）



※装備つきの仕様を選択した場合の部品

運転や操作の基本を覚えましょう

ひとりでの走行が問題ないと判断したら、実際に電動車いすに乗って練習をしてみましょう。

使用する環境や場所によっては、介助者の同行や介助操作が必要な場合もあります。
そのため、介助する方も実際に操作練習をしてみましょう。

電動アシスト車いす JWスウィング / JWX-2

⇒このページを参照してください。

軽量型電動車いす・車いす用電動ユニット

JWアクティブPLUS+ / JWX-1 PLUS+

タウンイジョイX PLUS+ / ジョイユニットX PLUS+

⇒P.18を参照してください。

介助者

⇒P.21を参照してください。

JWスウィング / JWX-2

基本操作1

平坦な広い場所で基本操作の練習をしましょう。

必ず介助者が付き添って安全を確認しながら行なってください。

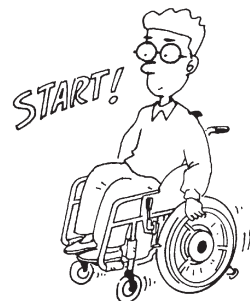
① はじめに電源を切った状態で手動の車いすの使いかたを覚えましょう。

- 手で走行できる距離や地形は、お乗りになる方の体力の違いにより異なります。
- 手で走行できる範囲を確認しましょう。



② 電源を入れて、電動アシスト操作の感覚を覚えましょう。

- はじめにアシスト量の小さいモード1に設定してください。
(詳細はJWスウィング / JWX-2取扱説明書「3.3.2 車いすを動かしてみよう」を参照してください)
- ハンドリムはゆっくりと静かに動かしてください。





- 動き始めは、キャストターが浮きやすいので注意しましょう。



③ 下記のような走りかたをしてみましょう。

- ブレーキ操作



- ブレーキの場合も電動アシストが働きます。
- いろいろな速度からブレーキをかけてみましょう。

- 後進



- 後進時の動きと特性を理解しましょう。
- 後方の安全を確認しましょう。

- 旋回



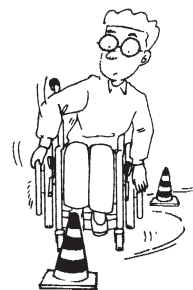
- その場で旋回してみましょう。
- 左右それぞれ回ってみましょう。

- S字・クランク走行



- 速度と方向変換のタイミングを覚えましょう。
- 思いどおりのコースを走れるようになりましょう。

- 障害物回避



- 回避動作ができるようになりましょう。
- 障害物にぶつからないように停止してみましょう。

警告

介助者がいるときは、後進時にぶつからないように注意する。
介助者がけがをするおそれがあります。

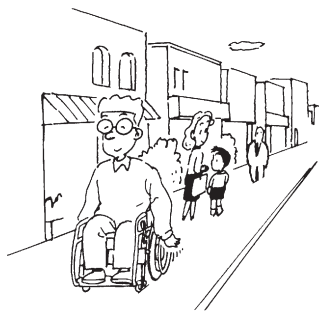
運転や操作の基本を覚えましょう

基本操作2

実際に車いすを使う場所で練習をしましょう。

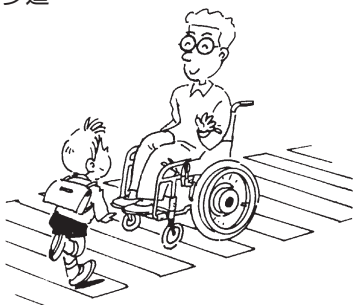
必ず介助者が付き添って安全を確認しながら行なってください。

● 歩道



- 路面に応じた運転方法を覚えましょう。
- 歩行者や障害物にぶつからないようにしましょう。

● 横断歩道



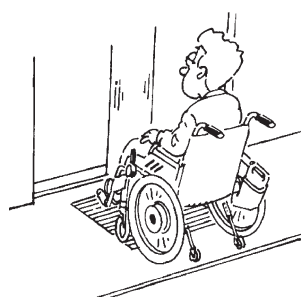
- 車道と歩道の段差に注意しましょう。
- 横断途中で信号が変わらないように、余裕を持って横断歩道を渡りましょう。

● 段差の上り下り



- 転倒防止バーが正しく設定されていることを確認しましょう。
- 段差の高さが25mm以下であることを確認しましょう。(乗り越えられる段差は、キャスターの大きさなどで異なります)
- 段差に対して直角に通過できるように進みましょう。
- 段差の手前でいったん停止し、慎重に進みましょう。
- 低い段差では後ろ向きに乗り越える方法もあります。

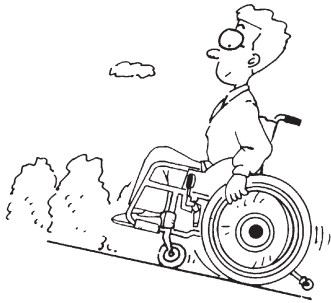
● 自動ドア



- 停止する位置の感覚を身に覚えましょう。



● 坂道



- 上り下りの感覚を身に覚えましょう。
- 上り坂ではキャスターが浮きやすいので注意しましょう。
- 上り坂での再発進は慎重にしましょう。
- 下り坂はすぐに停止できる速度で下りましょう。
- 走行できる坂の勾配は10% (6°) 以下です。

● 斜面を横断する場合など



- 斜面やかまぼこ道で真っすぐに走行する練習をしましょう。
- 勾配のきつい斜面では、特に慎重に行ないましょう。
- 走行可能な坂の勾配は10% (6°) 以下です。

日常、車いすをよく使う場所の路面をチェックしましょう

大きな段差、急な坂道、荒れた路面はありませんか？

このような危険な場所を通らないルートを走行するようにしましょう。



運転や操作の基本を覚えましょう

JWアクティブ PLUS+ / JWX-1 PLUS+、 タウニジョイX PLUS+ / ジョイユニットX PLUS+

基本操作1

平坦な広い場所で基本操作の練習をしましょう。
必ず介助者が付き添って安全を確認しながら行なってください。

① はじめに最高速度を低速に設定してから、 ジョイスティックの使いかたを覚えましょう。

- 最高速度を最も低い速度に調整してください。
(詳細は、JWアクティブ PLUS+ / JWX-1 PLUS+取扱説明書「4章 車いすを運転する」、タウニジョイX PLUS+ / ジョイユニットX PLUS+取扱説明書「4章 乗ってみましょう」を参照してください)
- ジョイスティックはゆっくり動かしてください。
- 進みたい方向にジョイスティックを倒します。



② 最高速度は低速のまま、 ジョイスティックの操作感覚を身に着けましょう。

- ゆっくり走るときは、浅めにジョイスティックを倒します。
- 速く走るときは、深めにジョイスティックを倒します。
- 減速・停止するときには、ジョイスティックを元の位置に戻します。





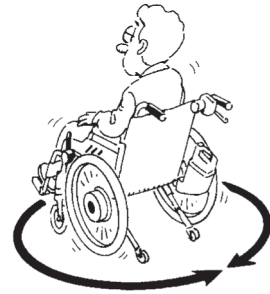
③ 下記のような走りかたをしてみましょう。

● 後進



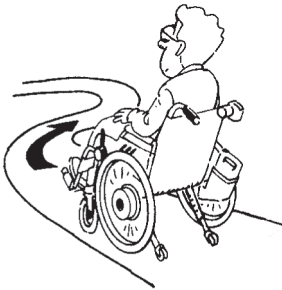
- 後進時の動きと特性を理解しましょう。
- 後方の安全を確認しましょう。

● 旋回



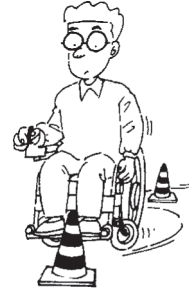
- ジョイスティックを真横に倒して、せまい場所で旋回できるようになります。
- 左右それぞれ回ってみましょう。

● S字・クランク走行



- 速度と方向変換のタイミングを覚えましょう。
- 思いどおりのコースを走れるようになります。

● 障害物回避



- 回避動作ができるようになります。
- 障害物にぶつからないように停止してみましょう。

 警告

介助者がいるときは、後進時にぶつからないように注意する。

介助者がけがをするおそれがあります。

④ 最高速度を徐々に上げて、同じ練習をしましょう。

運転や操作の基本を覚えましょう

基本操作2

実際に車いすを使う場所で練習をしましょう。

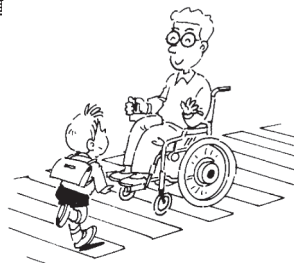
必ず介助者が付き添って安全を確認しながら行なってください。

● 歩道



- 路面に応じた運転方法を覚えましょう。
- 歩行者や障害物にぶつからないようにしましょう。

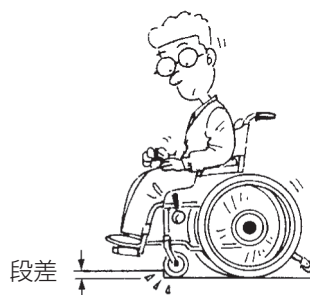
● 横断歩道



- 車道と歩道の段差に注意しましょう。
- 横断途中で信号が変わらないように、余裕を持って横断歩道を渡りましょう。

● 段差の上り下り

- 転倒防止バーが出ていることを確認しましょう。
- 段差の高さが25mm以下であることを確認しましょう。
(乗り越えられる段差は、キャスターの大きさなどで異なります)
- 段差に対して直角に通過できるように進みましょう。
- 段差の手前でいったん停止し、慎重に進みましょう。
- 低い段差では後ろ向きに乗り越える方法もあります。

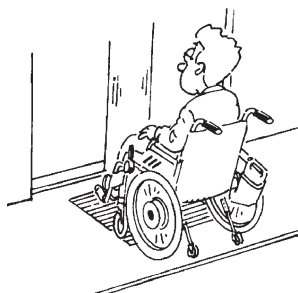


● 坂道



- 上り下りの感覚を身に覚えましょう。
- 上り坂での再発進は慎重にしましょう。

● 自動ドア



- 停止する位置の感覚を身に覚えましょう。

日常、車いすをよく使う場所の路面をチェックしましょう

大きな段差、急な坂道、荒れた路面はありませんか？

このような危険な場所を通らないルートを走行するようにしましょう。



基本介助操作（各ヤマハ電動車いす共通）

進行方向を変えたり 旋回したりする場合



- 手押しハンドルで運転してください。
(JWアクティブ PLUS+ / JWX-1 PLUS+、
タウンイジョイX PLUS+ / ジョイユニットX PLUS+
で介助用操作部付きの仕様を選択した場合も同様
です)

急な坂道を下る場合



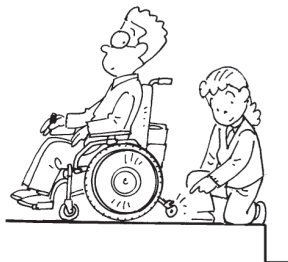
- 前進で下ると前のめりになるおそれがあります
ので、後進で下ってください。

段差を 乗り越えるとき*



- 段差に対して直角に通過できるように、車い
すの向きを変えます。
- ティッピングプレートを前に押し出すように
踏みながら、手押しハンドルを押し下げるよ
うにしてキャスターを浮かせて、段差を乗り
越えます。
(JWアクティブ PLUS+ / JWX-1 PLUS+、
タウンイジョイX PLUS+ / ジョイユニットX PLUS+)

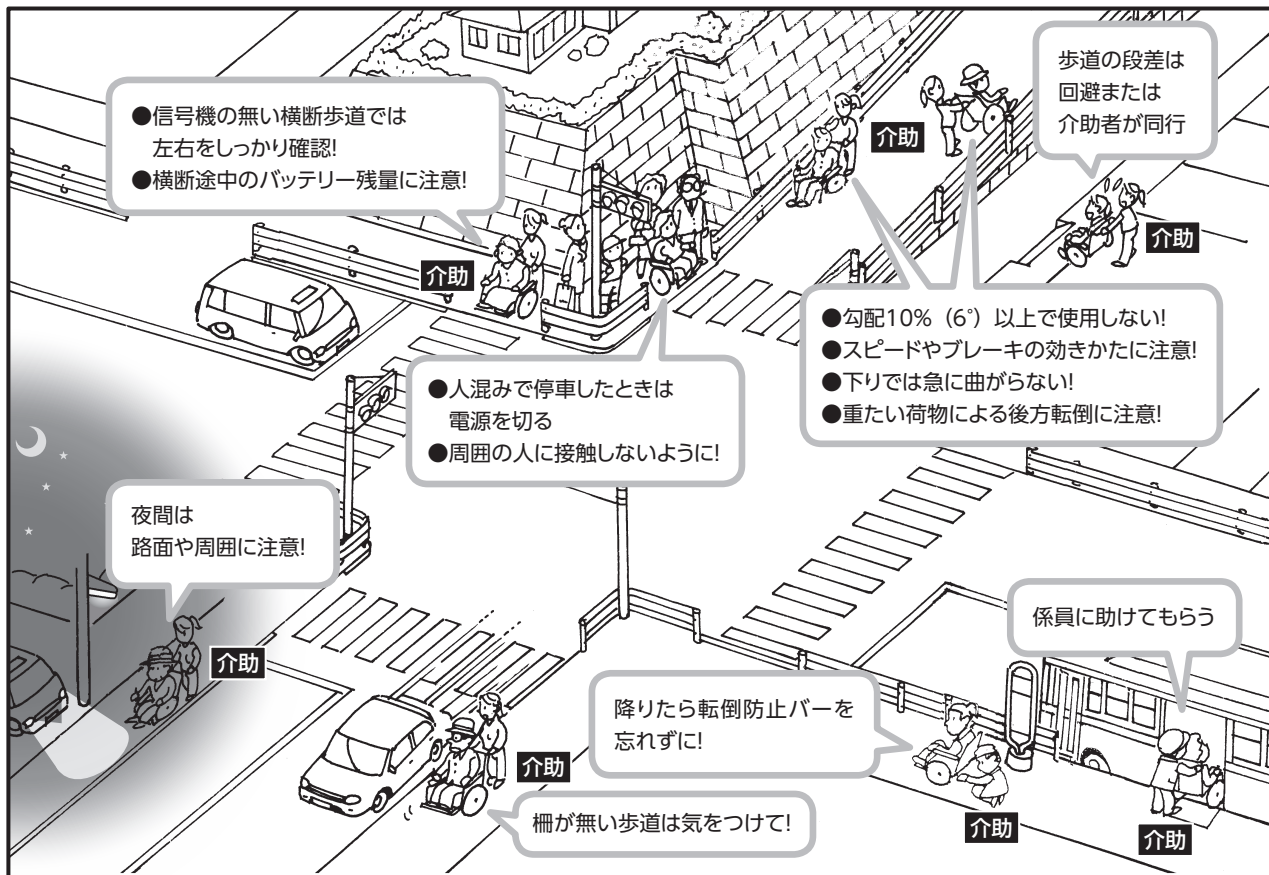
大きな段差を 乗り越えるとき*



- 転倒防止バーを格納し、『段差を乗り越える
とき』と同じようにして段差を乗り越えます。
- 段差を乗り越えた後は、必ず転倒防止バー
を元のように外に出して固定してください。

※ ・ JWスウィング / JWX-2は、電源を切って行なってください。
・ JWアクティブ PLUS+ / JWX-1 PLUS+、タウンイジョイX PLUS+ / ジョイユニットX PLUS+は、電源を切り、クラッチレバーを手動・手押側に行なってください。

⚠️ 車いすを安全にお使いいただくために



車いすは歩行者です

道路交通法上、電動を含む身体障がい者用車いすは歩行者として扱われます。

下記の歩行者用標識のある場所は標識に従って通行しましょう。



横断歩道



横断歩道・
自転車横断帯



歩行者専用



自転車及び
歩行者専用



歩行者
通行止め



歩行者
横断禁止

マナーについて

ホーン（警笛）の使いかた：

ホーンは人を退かすためのものではありません。やむを得ないときなど、使用は最小限にしましょう。

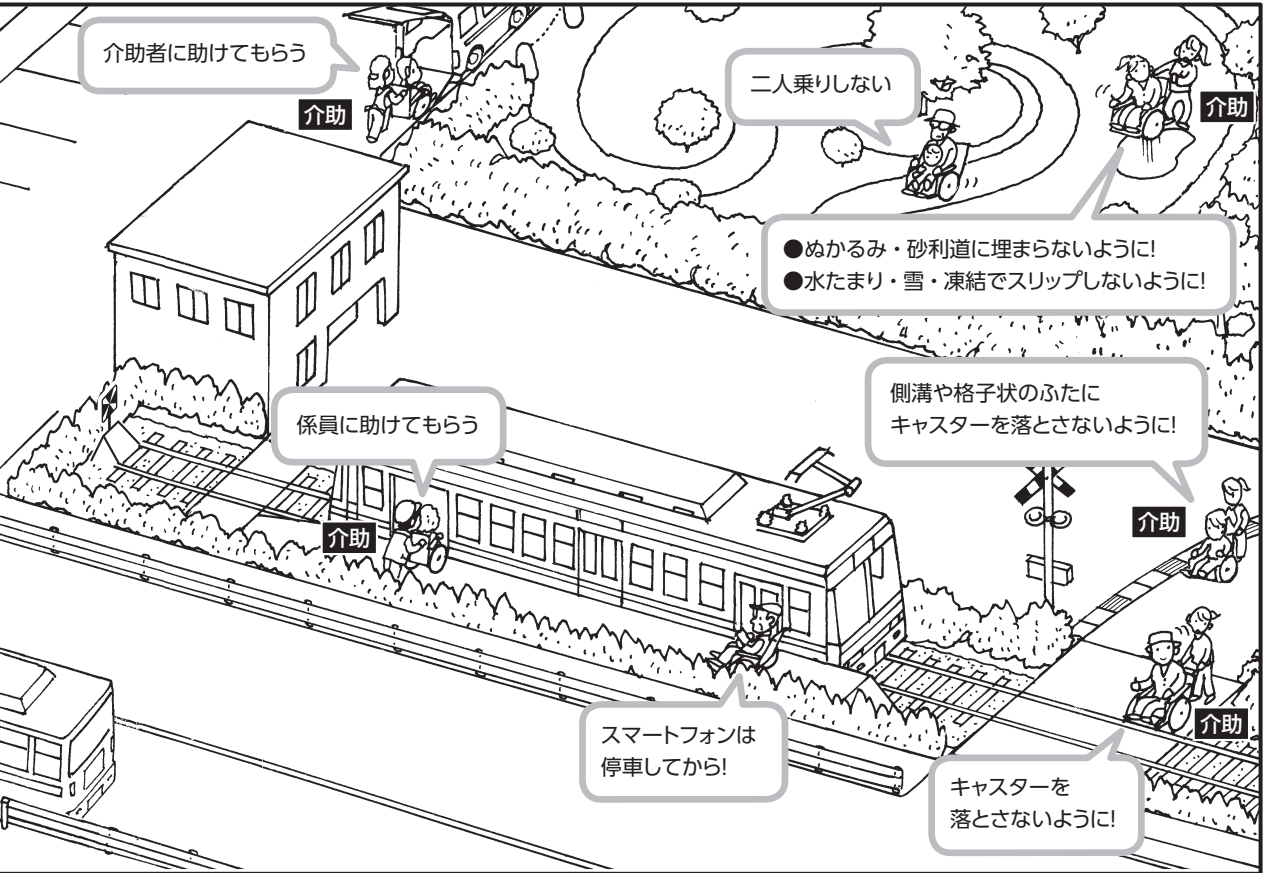
電動車いすは加害者にもなります：

電動車いすは便利な反面、使用を誤ると周囲の人にけがをさせるおそれがあります。走行には十分注意しましょう。

事前にルートを確認して、もし危険がある場合、危険な箇所を通らないルートを選ぶようにしましょう。

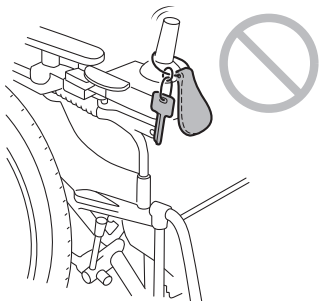


介助 この印がある場面では介助者が同行してください。



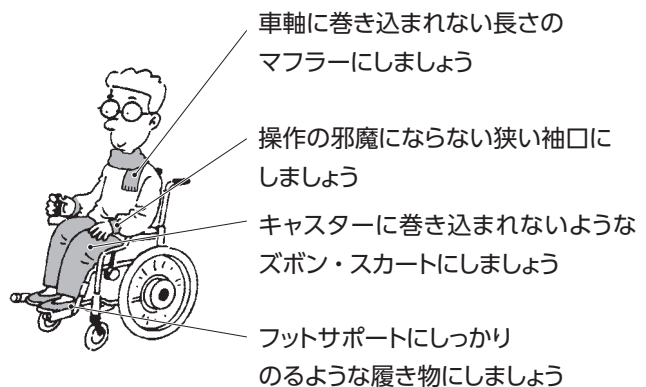
ジョイスティックにものをかけない

操作の妨げになるばかりか、ジョイスティックから手を離しても意図せぬ動きをする場合があります。



服装について

明るく周囲から目立ち、車いすの運転に適した服装をしましょう。



指導チェックシート

販売店様・レンタル店様は、車いすの引き渡しをする際、お使いいただく方に対して、下記のチェックシートに従って指導・お知らせを行なってください。各項目完了後、確認欄にレ点を記入してください。



警告

単独運転の練習など、お客様の運転練習には必ず指導者が同行してください。

不慣れな状態で運転されますとけがや事故をおこす場合があります。

チェック項目	参照	確認欄
1 操作能力の判定と介助の必要有無 介助者運転の必要性や常時介助者の同行が必要かを判断します。	本書「走行・介助操作 診断チェック」	
2 各部の取り扱い方法 電源を入れて運転する前までの順序	取扱説明書	
・バッテリーの抜き差しのしかた		
・バッテリー残量の確認方法		
・各種スイッチやクラッチレバー（JWスウィング／JWX-2を除く）の使いかた		
・速度調整の方法		
3 安全運転の指導	取扱説明書	
警告項目の説明		
自走用操作部による操作方法（JWスウィング／JWX-2を除く） 介助用操作部による操作方法（JWスウィング／JWX-2を除く）		
ハンドリムによる操作方法（JWスウィング／JWX-2） ※ JWアクティブ PLUS+／JWX-1 PLUS+のハンドリム操作についてはJWスウィングの特徴を除いてご説明ください。	本書「運転や操作の基本を覚えましょう」	
車輪着脱の方法（JWスウィング／JWX-2）	取扱説明書	
単独運転の練習 単独運転練習メニューの実施	本書「運転や操作の基本を覚えましょう」	
転倒防止バーの正しい使いかた 転倒防止バー調整、転倒防止バーの出しかたの実施	本書「安全指導のポイント」	
悪い環境での正しい走行方法		
クラッチレバーの正しい使いかた（JWアクティブ PLUS+／JWX-1 PLUS+）		
4 バッテリーの取り扱い方法	取扱説明書	
5 運搬の方法	取扱説明書	
6 保管の方法	取扱説明書	
7 保証登録手続き 保証登録書への販売証明印と返送のすすめ お客様から保証登録書を返送いただいた場合、保証書に則って製品保証をします。（購入後1年間）		

安全指導のポイント



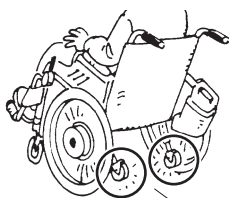
お客様にヤマハ電動車いすを安全にお使いいただき、電動車いすライフを楽しんでいただくためには、特に**転倒防止バー**、**クラッチレバー**（JWアクティブ PLUS+ / JWX-1 PLUS+）の正しい使いかたについて十分に理解していただく必要があります。

安全にお使いいただくために販売店様・レンタル店様は、転倒防止バーとクラッチレバーの正しい使いかたについてご指導ください。

転倒防止バーの正しい使いかた

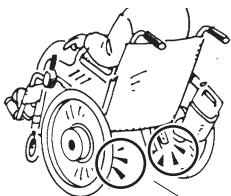
転倒防止バーの正しい使いかたについてご指導ください。

■ 誤った使いかた



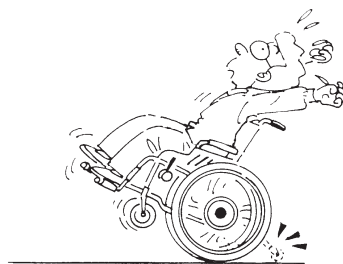
A

転倒防止バーが短い状態で使用しています。



B

転倒防止バーを折りたたんだ状態で使用しています。

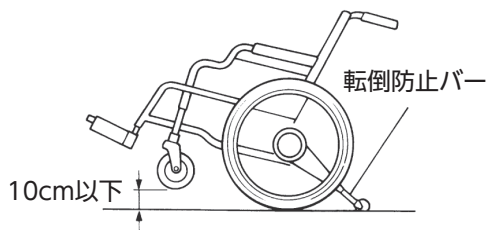


重心を後ろにかけすぎてバランスを崩すと転倒します。

■ 指導方法

A

- 転倒防止バーの長さは、車輪が接地した状態でキャスターと地面の間が10cm以下のスキ間ができる所でセットしてください。



B

- 走行前に必ず転倒防止バーを出してください。
- 段差乗り越え時に転倒防止バーを折りたたんだ場合、段差乗り越え後すぐに転倒防止バーを出してください。



A JWスウィング / JWX-2

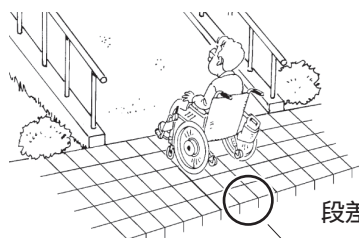
B JWアクティブ PLUS+ / JWX-1 PLUS+、タウンイジョイX PLUS+ / ジョイユニットX PLUS+

安全指導のポイント

転倒防止バーを過信しないこと

下記のような環境下での正しい走行方法をご指導ください。

■ 悪い環境での走行



段差のあるところで使用しています。



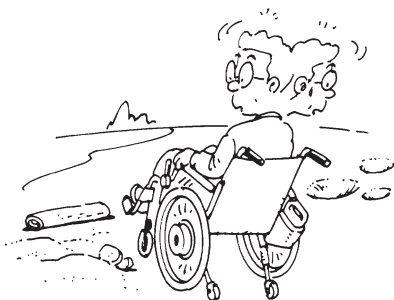
不整地で使用しています。



転倒防止バーが機能せずに、転倒の危険があります。

■ 指導方法

- 周りの状況を常にチェックし、転倒防止バーが機能する条件で使用してください。



- 転倒の危険がある場合は必ず介助者が同行し、周りの状況を確認してください。



⚠ 警告

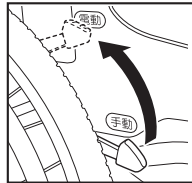
単独運転の練習など、お客様の運転練習には必ず指導者が同行してください。
運転に不慣れな状態で運転されますとけがや事故をおこす場合があります。



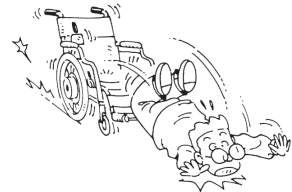
クラッチレバーの正しい使いかた (JWアクティブ PLUS+ / JWX-1 PLUS+)

クラッチレバーの正しい使いかたについてご指導ください。

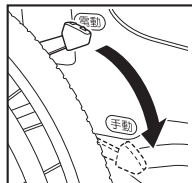
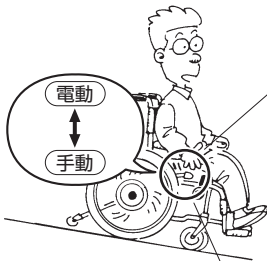
■ 誤った使いかた



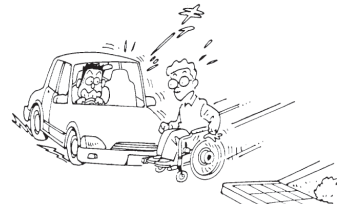
傾斜のある場所で手動走行中に、クラッチレバーを“電動”にしようとしています。



• 急ブレーキ状態になり体が前に放り出される危険があります。

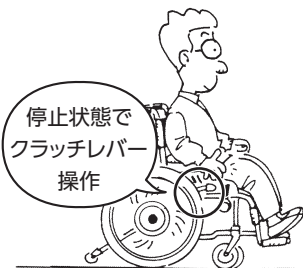


傾斜のある場所で電動走行中に、クラッチレバーを“手動”にしようとしています。



• 暴走し、転倒や転落の危険があります。
• 障害物への追突や道路に飛び出す危険があります。

■ 指導方法



- 走行中には絶対にクラッチレバーを切り替えないようにしてください。
- クラッチレバーが電動側に入っていない場合は、電磁ブレーキは効きません。
- クラッチレバーの切り替えは
① 平坦な場所で ② 停止後に ③ 駐車ブレーキをかけてから行なってください。

⚠ 警告

単独運転の練習など、お客様の運転練習には必ず指導者が同行してください。
運転に不慣れな状態で運転されますとけがや事故をおこす場合があります。



ヤマハ電動車いす
初めてお使いいただく方へ

2017年4月発行
不許複製
編集発行 ヤマハ発動機株式会社

XA2-2819T-05



201704-0.8x1 CR